

**新開発の APS-C サイズカメラ用「RF-S レンズ」2 機種を発売  
「EOS R システム」の高画質・高機能を APS-C サイズで実現**

キヤノンは、RF マウント初の APS-C サイズカメラ用「RF-S レンズ」として、“RF-S18-45mm F4.5-6.3 IS STM” および “RF-S18-150mm F3.5-6.3 IS STM” を 6 月下旬に発売します。



RF-S18-45mm F4.5-6.3 IS STM



RF-S18-150mm F3.5-6.3 IS STM

「RF-S レンズ」は、RF マウントの APS-C サイズ CMOS センサー搭載のデジタルカメラ用に開発した新たなレンズシリーズです。小型・軽量と「EOS R システム」の高画質・高機能を実現するとともに、EOS R シリーズのフルサイズカメラにも装着することが可能<sup>※1</sup>で、ユーザーの選択肢を拡大します。「RF-S レンズ」の第一弾として、標準ズームレンズ“RF-S18-45mm F4.5-6.3 IS STM”と高倍率ズームレンズ“RF-S18-150mm F3.5-6.3 IS STM”の2機種を、APS-C サイズ CMOS センサーを搭載するカメラの新製品「EOS R7」（2022年6月下旬発売予定）、「EOS R10」（2022年7月下旬発売予定）とともにラインアップに加えることで、「EOS R システム」を強化し、さまざまな撮影ニーズに応えます。

**■ 携行性に優れた標準ズームレンズ “RF-S18-45mm F4.5-6.3 IS STM”**

全長約 44.3mm、質量約 130g の小型・軽量設計と快適な操作性を両立しています。また、レンズ内光学式手ブレ補正機構により 4.0 段<sup>※2</sup>、「EOS R7」装着時はボディー内手ブレ補正機構と協調制御することにより 6.5 段<sup>※2</sup>の手ブレ補正効果を発揮します。さらに、AF 撮影時に最短撮影距離 0.20m、最大撮影倍率 0.16 倍の近接撮影<sup>※3</sup>を実現するなど、多様な撮影シーンに対応します。

**■ 幅広いシーンに対応する高倍率ズームレンズ “RF-S18-150mm F3.5-6.3 IS STM”**

35mm 判換算で 29-240mm 相当の幅広い焦点距離と、全長約 84.5mm、質量約 310g の小型・軽量設計を実現しています。また、レンズ内光学式手ブレ補正機構により 4.5 段<sup>※4</sup>、「EOS R7」装着時はボディー内手ブレ補正機構と協調制御することにより 7.0 段<sup>※4</sup>の手ブレ補正効果を発揮します。さらに、動画撮影時の手ブレを効果的に補正する「ダイナミック IS」や、AF 撮影時に最短撮影距離 0.17m、最大撮影倍率 0.44 倍の近接撮影<sup>※5</sup>を実現し、撮影表現の幅を広げます。

製品名	希望小売価格	発売日
RF-S18-45mm F4.5-6.3 IS STM	オープン価格	2022年6月下旬
RF-S18-150mm F3.5-6.3 IS STM		

※1 フルサイズカメラ装着時は、撮影画面の中央部が APS-C サイズ相当の画角にクロップされます。

※2 動作条件は、2 ページ 2.の※1、※2 に記載。

※3 最短撮影距離 0.20m は焦点距離 18mm 時。最大撮影倍率 0.16 倍は焦点距離 45mm 時。

※4 動作条件は、3 ページ 2.の※1、※2 に記載。

※5 最短撮影距離 0.17m は焦点距離 18-35mm 時。最大撮影倍率 0.44 倍は焦点距離 50mm 時。

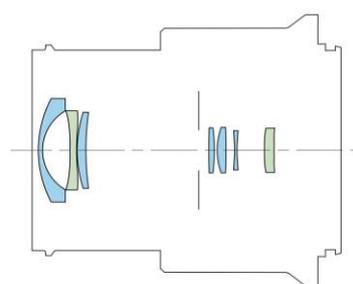
## < “RF-S18-45mm F4.5-6.3 IS STM” の主な特長 >

### 1. 携行性に優れた小型・軽量設計

- ・RFマウントのショートバックフォーカス<sup>※1</sup>による光学系の小型化や、カメラ側の電子歪曲収差補正<sup>※2</sup>を活用することで、全長約 44.3mm、質量約 130g の携行性に優れた小型・軽量設計を実現。
- ・スイッチを使わないレンズ収納機構を採用。簡単に鏡筒が収納でき、優れた携行性を実現。
- ・フォーカスリングとコントロールリングが一体になった「フォーカス/コントロールリング」を搭載。
- ・2枚の「非球面レンズ」を含む7群7枚のレンズの光学設計により、画質劣化の原因となる諸収差を低減し、高画質を実現。
- ・EOS RシリーズのAPS-Cサイズカメラに加え、EOS Rシリーズのフルサイズカメラにも装着でき、それぞれのカメラを併用する場合など、レンズを有効活用することが可能。

※1 最後部のレンズ面の頂点から撮像面までの光軸上の距離が短いこと。

※2 画像処理で歪曲収差を補正すること。カメラに取り付けた場合、カメラの歪曲収差補正が自動的に「[する]」に設定されます。「EOS R5」(2020年7月発売)、「EOS R6」(2020年8月発売)、「EOS Ra」(2019年12月発売)、「EOS RP」(2019年3月発売)、「EOS R」(2018年10月発売)では、このレンズを使った多重露出撮影はできません。



RF-S18-45mm F4.5-6.3 IS STM  
光学構成図

フォーカス/コントロールリング



ズームリング

携行性に優れた小型・軽量ボディ

### 2. 快適な撮影を可能にする手ブレ補正効果

- ・レンズ内光学式手ブレ補正機構により 4.0 段<sup>※1</sup>の手ブレ補正効果を実現。「EF-M 15-45mm F3.5-6.3 IS STM」(2015年10月発売)と比較して、手ブレ補正効果が向上。
- ・「EOS R7」装着時は、ボディ内手ブレ補正機構と協調制御することにより、6.5 段<sup>※2</sup>の手ブレ補正効果を実現。

※1 焦点距離 45mm (35mm 判換算 72mm 相当)、EOS R10 使用時。CIPA 規格に準拠 (Yaw/Pitch 方向)。

※2 焦点距離 45mm (35mm 判換算 72mm 相当)、EOS R7 使用時。CIPA 規格に準拠 (Yaw/Pitch 方向)。

### 3. 表現の幅を広げる近接撮影や動画撮影

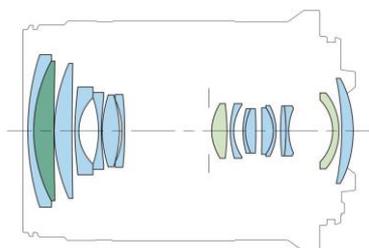
- ・AF撮影時に最短撮影距離 0.20m、最大撮影倍率 0.16 倍の近接撮影が可能。また、MF撮影時には、クローズアップ撮影により最短撮影距離 0.15m、最大撮影倍率 0.26 倍を実現<sup>※</sup>。テーブルフォトなど被写体に近寄った撮影や、ボケ味を生かした撮影が可能。
- ・リードスクリータイプのステッピングモーター (STM) の搭載により、動画撮影時にも滑らかな AF が可能。
- ・7枚羽根の円形絞りを採用することで、背景を円形で美しくぼかした描写が可能。
- ・RFレンズの特長である、レンズ撮影距離表示に対応。

※ 最短撮影距離 0.15m は焦点距離 18mm 時。最大撮影倍率 0.26 倍は焦点距離 45mm 時。

## < “RF-S18-150mm F3.5-6.3 IS STM” の主な特長 >

### 1. 1本で幅広いシーンに対応する高倍率ズーム

- ・35mm 判換算で 29-240mm 相当の広角域から望遠域をカバーする、光学約 8.3 倍の高倍率ズームと全長約 84.5mm、質量約 310g の小型・軽量設計を両立。日常での撮影から旅、スポーツ、鉄道など、多彩なシーンでの撮影に対応。
- ・1枚の「UD レンズ」、2枚の「非球面レンズ」を含む 13 群 17 枚のレンズの光学設計により、画質劣化の原因となる諸収差を低減し、高画質を実現。
- ・EOS R シリーズの APS-C サイズカメラに加え、EOS R シリーズのフルサイズカメラにも装着でき、それぞれのカメラを併用する場合など、レンズを有効活用することが可能。



● UD レンズ ● 非球面レンズ

RF-S18-150mm F3.5-6.3 IS STM  
光学構成図



広角 18mm  
(35mm 判換算 29mm)



望遠 150mm  
(35mm 判換算 240mm)

### 2. 快適な撮影を可能にする手ブレ補正効果

- ・レンズ内光学式手ブレ補正機構により 4.5 段<sup>\*1</sup>の手ブレ補正効果を実現。
- ・「EOS R7」装着時は、ボディ内手ブレ補正機構と協調制御することにより、7.0 段<sup>\*2</sup>の手ブレ補正効果を実現。
- ・動画撮影時の手ブレを効果的に補正する「ダイナミック IS」を搭載。特に広角側で大きな手ブレ補正効果を発揮し、歩きながらの動画撮影時も快適な撮影が可能。ボディ内手ブレ補正機構搭載／非搭載及びその方式<sup>\*3</sup>に関わらず、補正効果を発揮。

<sup>\*1</sup> 焦点距離 150mm (35mm 判換算 240mm 相当)、EOS R10 使用時。CIPA 規格に準拠 (Yaw/Pitch 方向)。

<sup>\*2</sup> 焦点距離 150mm (35mm 判換算 240mm 相当)、EOS R7 使用時。CIPA 規格に準拠 (Yaw/Pitch 方向)。

<sup>\*3</sup> ボディ内手ブレ補正機構／動画電子 IS。動画電子 IS 使用時は、撮影範囲が狭くなります。

### 3. 表現の幅を広げる近接撮影や動画撮影

- ・AF 撮影時に最短撮影距離 0.17m、最大撮影倍率 0.44 倍の近接撮影が可能。また、MF 撮影時には、最短撮影距離 0.12m、最大撮影倍率 0.59 倍を実現<sup>\*</sup>。クローズアップ撮影を使った「Center Focus Macro」機能により、通常のマクロ撮影と比べ、画面周辺を大きくぼかしたような描写が可能。
- ・「EF-M18-150mm F3.5-6.3 IS STM」(2016 年 11 月発売)と比較して、同等の小型・軽量設計を維持したまま、最短撮影距離／最大撮影倍率が向上。
- ・リードスクリュータイプのステッピングモーター (STM) の搭載により、動画撮影時にも滑らかな AF が可能。
- ・7 枚羽根の円形絞りを採用することで、背景を円形で美しくぼかした描写が可能。
- ・RF レンズの特長である、レンズ撮影距離表示に対応。

<sup>\*</sup> 最短撮影距離 0.12m は焦点距離 18-24mm 時。最大撮影倍率 0.59 倍は焦点距離 35mm 時。

## <主な製品仕様>

製品仕様の詳細は、ホームページをご参照ください。